

令和2年度の取組状況について

【概要】

本市は、平成28年度から国家戦略特区制度を活用しながら、介護ロボット等の導入により介護職員の心身の負担軽減をはじめ、介護サービスの質の向上、利用者のQOL向上、さらには介護ロボット産業の振興を目指す「先進的介護」の実現に向けた取組を推進している。

令和2年度は、前年度のパイロット事業における実証を経て構築した介護現場の新たな働き方「北九州モデル」の市内外への普及を図るため、介護施設における「北九州モデルの導入・実践をサポートするための導入支援拠点」の設置に向けた準備を進めるとともに、介護施設を対象とした「導入・実践ガイドライン」の作成を行った。

併せて、ICT・介護ロボット等の普及拡大に向け、「介護現場における専門人材の育成」及び「現場ニーズに沿った機器等の開発・改良支援」に取り組んだ。

さらに、厚生労働省「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業」を受託し、九州・沖縄地区を対象とするICT・介護ロボット等の開発・実証・普及に係る相談窓口（地域拠点）を設置し、ICT・介護ロボット等の開発から普及までの一連の流れの加速化に向けた取組の他、市内介護施設を対象とした介護ロボット導入状況調査、様々な機会を捉えた情報発信、前年度実証の成果等を踏まえた国に対する提案等を実施した。

平成28年度から5年間を目途として取り組んできた本事業の最終成果として「北九州モデル」を構築できたこと、また、その成果を踏まえた国への提案により、令和3年度介護報酬改定に本市の要望事項が反映されたことで、当初の事業目標を達成できたものと考えている。

〔取組み内容〕

- 1 先進的介護「北九州モデル」の普及に向けた取組
- 2 介護ロボットマスター育成講習の開催
- 3 介護ロボット等の開発・改良支援
- 4 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業
- 5 情報発信
- 6 介護ロボット導入状況調査
- 7 国に対する要望・提案

1 先進的介護「北九州モデル」の普及に向けた取組

(1) 導入・実践をサポートする導入支援拠点の整備（令和3年4月26日開設）

1) 目的・内容

北九州モデルの普及を図り、介護施設における介護の質の維持・向上、職員の負担軽減及び生産性の向上を実現することを目的に、コンサルティングや機器導入等に関する専門の相談員を配置し、伴走型の支援を行う「北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センター」（以下「センター」という。）を整備した。

センター内には、特別養護老人ホームの居室等を再現し、北九州モデルの実証で導入した機器の連携・運用方法を可視化する「北九州モデル再現エリア」と介護ロボット等の実機を展示する「機器展示エリア」を一体的に整備した。

2) 場所

北九州市総合保健福祉センター 北九州市立介護実習・普及センター内

(2) 導入・実践ガイドラインの作成

市内の介護施設において、北九州モデルの導入を促進させるため、北九州モデルを導入する際の手引きとなるガイドラインを作成し、市内の全ての介護施設に配付する。（配付については令和3年度中を予定）

2 介護ロボットマスター育成講習の開催

介護現場においてICT・介護ロボット等の導入・活用を推進する役割を担う専門人材（介護ロボットマスター）の育成を目的に、平成29年度から実施している「介護ロボットマスター育成講習」をオンラインで開催した。

開催期間	コース名	内容	受講者
令和2年12月14日 ～令和3年1月4日	初級 (介護ロボット オペレーター育成)	介護ロボット等を活用する意義の理解及び基本的な知識の習得	50名
令和2年12月22日 ～令和3年1月12日	中級 (介護ロボット リーダー育成)	導入した介護ロボット等について、自分の職場に適した活用マニュアルを作成するための知識と技術の習得	44名
令和3年1月5日 ～1月26日	上級 (介護ロボット マネージャー育成)	介護ロボット等の導入・活用を推進し、職場全体の作業効率を高めるためのノウハウの習得	35名

3 介護ロボット等の開発・改良支援

北九州市介護ロボット開発コンソーシアム

平成28年度に（公財）北九州産業学術推進機構（通称：FAIS）を事務局として、「北九州市介護ロボット開発コンソーシアム」を立ち上げ、会員企業・団体による実証機器の提供や介護現場のニーズを反映させたICT・介護ロボット等の開発・改良を支援した。また、令和2年度は、新たに「北九州リビングラボ」を立ち上げ、介護施設の業務における身近なニーズに応える機器等の開発に向けた活動を実施した。

- (1) 会員数
55 会員（令和3年3月末現在）
- (2) 具体的な支援策
 - ・ 実証データの提供
 - ・ 実証フィールドの提供
 - ・ 開発助成
 - ・ ホームページによる広報・PR
 - ・ 倫理審査、安全検証のサポート
- (3) 改良・開発実績（累計）
改良8件、開発9件、うち助成件数14件（令和3年3月末現在）
※「北九州リビングラボ」において、下記の2件の機器を開発
 - ①人体の誘電率の変化を検知できる布センサー技術を用いた車椅子着座センシングシステムの開発
 - ②入浴支援機器の試作（職員の中腰姿勢を支える支援ツール）

4 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業（厚生労働省委託）

厚生労働省「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業」の一環として、「九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター」を北九州市立介護実習・普及センター内に設置し、九州（沖縄含む）全域を対象とした介護ロボット等に関する相談受付及び研修会を実施し、介護現場に対して、介護ロボットの活用方法の紹介等を行った。

- ・ 相談対応：5件（令和3年3月末現在）
- ・ 介護ロボット試用貸出：7件（令和3年3月末現在）
- ・ 介護ロボット導入セミナー

開催日時	令和2年11月17日（火）14：00～17：00
開催方法	オンライン
内容	介護職員の負担軽減と介護サービスの質の維持・向上を同時に実現する新たな働き方「北九州モデル」を中心に、with コロナ時代の新たな介護のあり方を考える。
受講者	158名

5 情報発信

北九州市の目指す「先進的介護」の実現に向けた取組を広く全国に情報発信することで、介護事業者やロボット開発メーカー、さらには厚生労働省をはじめとした国の関係機関・団体等との連携強化を図るため、出前講演、視察の受入等を行っている。

なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、視察等の件数が減少している。

【実績】	件数（延数）			参加者（延数）		
	令和元年度	令和2年度	増減	令和元年度	令和2年度	増減
出前講演	23件	3件	▲20件	1,032人	206人	▲826人
視察対応	22件	6件	▲16件	116人	74人	▲42人
取材対応	10件	2件	▲8件			

6 介護ロボット導入状況調査

(1) 目的

本調査は、平成30年度に実施した、市内の介護施設・事業所における介護ロボットの導入状況等に関する「介護ロボットの導入状況等に関するアンケート調査」のフォローアップ調査として実施した。

(2) 方法

アンケート調査

(3) 対象種別及び施設・事業所数

種別	施設・事業所数
介護老人福祉施設	59
地域密着型介護老人福祉施設	22
介護老人保健施設	34
認知症対応型共同生活介護	146
特定施設入居者生活介護	50
合計	311

(4) 結果概要

- ・介護老人福祉施設及び地域密着型介護老人福祉施設での普及率が45.7%（前回36.3%）に拡大
- ・今後の機器導入を予定する施設の割合が全体の54.4%に達しており、見守り、移乗介助、介護記録の分野が上位となっている。

7 国に対する要望・提案

令和2年6月、厚生労働省に対し、北九州モデルの展開に必要な要望・提案を行った。その結果、令和3年度介護報酬改定において本提案内容が反映されるなど、本市の取組成果が国の施策に取り入れられるに至った。

項目	結果
夜勤職員配置加算の緩和	特別養護老人ホーム等において、見守りセンサーを全居室に設置すること等により、夜間の最低基準に加えて配置する人員を0.6人に緩和（現行は0.9人）